# 栃木KN邸

所在地：栃木県芳賀郡

用途：住宅

構造設計：花輪建築構造設計事務所

設備設計：遠藤二夫、若松宏

施工：山和建設

敷地面積：4431

建築面積：304.3

延べ床面積：446.57

構造規模：木造2階建

竣工：1988.11

この住宅の敷地は関東平野北部の田園地帯にあり僅かに東に向かって傾斜している。今年の８月着工で約９ヵ月の工期を予定している。

室構成、平面構成とも極めてオーソドックスなものであり、一階にＬＤＫ、車庫の他、老人室、客室等をとり、二階に主寝室のほか子供室二室の他、屋根裏を利用して機械室と倉庫がとられている。それらが曲線（円弧とクロソイド曲線）を描く大屋根の下に収められている。また北側（アプローチ側であると同時に道路側）はＲＣ壁を主体とした閉鎖的表現を持ち、南側（庭園側）は木造軸組工法を主体とした開放な表現になっている。このあたりは既に発表した「天城の山荘」の延長上にある。敷地は約４４００m2あり、これは一般的な都市の居住者からすれば気の遠くなるような広大さであるが、それでも南側に程々の庭園をとると建物の北面から敷地に面する県道までは１７Ｍしかなく、結構頻繁に通る車の騒音が気になる。決してＰ．ジョンソンの自邸のような四面開放的な構成は採れないのである。

この住宅の設計を進めるときには、机の端に堀口捨己があった。近代数寄屋のなかでも堀口の構成主義と不思議なハイブリッド性に強く引かれる。平面構成は矢車式のシェマが下敷きになっているし、曲面の屋根とフラットな屋根の構成は紫烟荘のコンポジションを頭に置いている。

主な仕上げは、屋根が純鉛板スタンディングシーム（現場溶接工法）、ＲＣ壁部分が杉板うづくり型枠打ち放しのうえ半透明塗装、木部が真壁（桧小幅板横羽目）キシラデコール塗装を予定している。